



まさかここまで..?

話題の映画「新聞記者」を観て

直属部 高橋 京さん

今話題の映画「新聞記者」を観ました。映画の原案となった「新聞記者」の著者は東京新聞記者の望月衣塑子(いそこ)さん。菅義偉官房長官の定例記者会見で、私たちの声を代弁して記者として、その後官邸から妨害をされてきた方です。真実を伝えようとす

る現場の記者に対して圧力がかかることは知っていました。が、びっくりしたのは「内調」といわれるところの仕事の内容でした。内閣情報調査室の略称であり、あらためてHPを見てみました。

「内閣情報調査室は、内閣の重要政策に関する情報を収集・分析して官邸に報告し、官邸の政策決定と遂行を支援する官邸直属の情報機関」とありました。

映画では、「この国の民主主義は形だけでいいんだ」との内閣官僚のせりふがあります。

た。国会前の抗議行動に参加している一般人の写真を示し、経歴等を徹底的に調べようと命令する上司に、「この人たちは素人ですよ」と意見を述べるが従わざるを得ない場面。また、政権に批判的な著名人の過去の経歴等を調べさせ、ネットで拡散する内調職員

の姿。元文部科学省事務次官の前川喜平さんの良くない噂がネットで流されたこともあり、これは映画だ、フィクションだと済まされる問題ではないのではないか?と思いました。

日本にもムーア監督のような人がいるのだと嬉しくなりました。

現在、官邸に権力が集中し、メディアへの介入も強まりました。報道の自由と国民の知る権利が侵されつつある社会にストップをかけるには、暗い社会を次世代に残していくこととなります。



解雇されたのは 現場の職員 年金の問題 若者ごと

社会保険庁の不当解雇撤回闘争について知る機会がありました。2009年12月31日に社会保険庁が解体。これに伴い525人が整理解雇されました。解雇されたのは現場の職員だけで、幹部は誰一人として首を切られなかったということでした。東北大学の雇止めと共通するものを感じました。(T)

東北大学を退職して数年経ちます。雇い止めの闘いはじめ、連日の活動お疲れ様です。

現在、年金の問題が浮上してきております。随分昔に、積立金で建てて運営してきた「グリーンピアいわぬま」が、経営不振によりびっくりする金額で譲渡され、不思議に感じたことを思い出しました。

積立金を株で損しても誰しも責任を取らず、年金の給付額は引き下げられ・・・、私たちが年寄り、はもとより、若者こそもつと怒っているのです。(H)

「コア」新年度号
2019年度
宮城県機関紙コンクール
「審査員特別賞」受賞

編集後記

参議院選挙の結果が出ました。年金、社会保障、暮らし、消費税、働き方、平和の問題等々、私たちに直結する課題が山積しているのに、投票率の低さに暗澹たる思いです。無関心な人こそ一番政治的だと話す人もいます。権力を持っていない私たちが貴重な選挙権、無駄にしてどうします? 組合も同じです。与えられた権利、しっかり行使しましょう。(編M)

これからの日程

8月24・25日(土・日)
第65回日本母親大会in静岡
9月7日(土) 県労連定期大会
9月8日(日)
第59回宮城県母親大会in石巻
10月26日(土)
全大教東北地区職種別懇談会